

平成12年11月(2000年) No. 419

盛会だった大阪アマチュア映像祭 第40回 OMC 映像フェスティバルも成功願う

大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭も、今年で4回目を迎えましたが、土曜日で天気もいま一つの日にも拘わらずほぼ満員盛況でした。関西地区最大の映像イベントとしてすっかり定着してきたようで嬉しい限りです。観客動員や当日のお手伝い頂いた方々に感謝いたします。有難うございました。引き続き11月25日(土曜日)には、我がOMCの第40回の記念すべき映像フェスティバルが控えております。会場申し込みのくじ運が悪く、阿倍野市民学習センターの講堂が確保できなかったため、難波市民学習センターの講堂を借りて開催することになりましたが、お友達やご家族へのお誘い等ご協力頂きたいと思っております。また会場設営、運営の方にも当日ご協力ください。

DVデッキの購入でDV作品が激増

10月作品研究会より、DVテープも受付けるようになりましたが、ミニカセットは小さくポケットに入れて持参できるので、会員諸氏の提出テープもほとんどミニDVカセットになってまいりました。画質もよく、ますます美しい画面が楽しめそうです。ただプロ仕様のDVCAM等はデッキが反応しませんので、民生用DVタイプでの作品をお願いします。

11月例会と作品研究会のお知らせ

— 第3土曜日です。お間違いなきよう —

11月例会は、第3土曜日18日6時より、作品研究会は1時半より阿倍野市民学習センターで行われます。OMC映像フェスティバルが第4土曜日25日難波市民学習センターにて行われる関係で例会が1週間早くなっています。作品研究会は自由作品で、特に助言や意見など求めたい作品や未完成作品でもどしどしお持ちください。例会ともども有意義で楽しいひとときを送りましょう。

西村さんが玄光社の全国映像コンに入賞

ビデオサロンでおなじみの玄光社が募集している「旅の映像コンクール」に、西村光雄さんの「ネパールの中のニッポン」が、見事入賞を果たされました。同コンクールは全国のベテラン映像作家が競って応募するので、このところ入賞するのは大変至難でレベルの高いコンクールになっています。その中において西村さんの入賞、まことにおめでとうございます。なお、この作品は今度のOMC映像フェスティバルで上映されます。

10月研究会のレポート

10月15日うつぼ公園にて花と彫刻展をテーマに撮影会を行いました。10月作品研究会のメインテーマは「花と彫刻」でした。撮影会参加者は当日8名でしたが、前後に個人的に行かれた方も多く、作品は10本の多くが寄せられました。同じ被写体でも撮影、編集、録音によってこうも作品が違ってくるのか、とあらためて思った次第です。作品は1本1本上映が終わるたびに、ゆっくりと時間を割いて意見の交換やアドバイスなりで、作品研究会ならではの雰囲気のもとに研究会が進行されました。出席者はお客様1名を入れて17名、作品はミニ撮影会作品10本とその他2本の計12本が出品されたました。

■上映作品（敬称略）

1. パークでひと刻：森田光晴3分20秒：森田さんの作品は初めて拝見したように思います。晴天の日に撮られ、いい色に仕上げられています。花と小鳥にいいカットが見られました。パソコン編集に挑戦された由。

2. 花と彫刻展：増池 茂5分50秒：3回ほど通われたとか。行楽客や犬や猫など入っていてビデオスケッチ的なまとめ。テンポの速すぎる曲で少し損をされています。選曲についてしばし意見交換が続きました。

3. Object（オブジェ）：関 剛5分10秒：2回行かれた由。噴水シーンから始まって風車、風船、女像と続きますが、さすがに成るほどこんなねらい方があったのかと思われる印象的なアップ画面はさすが。BGMはいつもの関さんのパンチの効いた曲でなく落ち着いたクラシックの曲でした。

4. SCULPTURES：有村 博6分8秒：題名の英語は「彫刻たち」という意味だそうです。晴天の日に撮影され美しい画調に仕上がっていました。パソコン編集でOLの連続なので軽快なBGMは少しイメージが合わないのではないかと、ひとしきり話題がつかまませんでした。

5. 彫刻のある公園：江村一郎3分50秒：撮影会の日は来られないからと前日の土曜（快晴）に撮られたが美しい画面です。四ツ橋筋から入って看板そして公園風景など丁寧な導入部ですが、今までの切れの良い動的な編集タッチの江村作品がこのところ観られなくなったと郷愁にも似た感が……。

6. 秋のうつぼ公園：安居良枝4分40秒：ナレーション入りの作品でそれなりにうまくまとめているが、ノンナレで一度作って見たらと助言あり。

7. 芸術の秋：安居利次4分45秒：インタビューを混じえて構成されていますが、声がうまく聞き取りにくいので意図がいまひとつ伝わってきません。上映後説明を聞いて納得しました。こういうときはテロップ等で要点を同時に出したらどうか等と意見が出されました。インタビューの扱い方の勉強になりました。

8. 彫刻のある風景：合原一夫6分30秒：画面構成は色々考えてまとめているがどうもBGM（武満 徹作曲）がムードに合わないのではないかと指摘が

ありました。それと画面のふらつき部分が気になりました。

9. 鞆公園：森 保信5分10秒：本日唯一の S-VHS 作品。2 回ほど行かれ花をたっぷり入れてビデオスケッチ風にまとめられました。

10. 造形雑感：河合源七郎5分45秒：「展覧会の絵」というクラシックのピアノ曲に合わせてうまくまとめられていました。曲の編集（長い曲をいいところだけを取り入れて短く編集する）に苦労された由。

11. 当尾心象：玉井ひとし6分6秒：去年の OVC クラブの撮影会作品を再編集されて持参。いい BGM に恵まれてまさに心象風なまとめ方を心掛けられたが、こういう作品はアップが大事で説明的な画面は不用などと、親切なアドバイスがこの分野の第一人者、関氏よりあり勉強になりました。

12. ザ・ダンジリ：前田茂夫9分28秒：岸和田のダンジリは今や有名になりすぎて撮影もままならないようですが、貝塚のダンジリは人出も少なく山車の台数こそ少ないけれど結構迫力あるダンジリのようなようである。

以上で研究会作品の上映が終わり、6 時からの例会までのひととき、夕食タイムで一向は地下食堂街へ散って行きました。

10月例会レポート

研究会に引き続き例会を同じ会場で行いました。出席者 24 名（うち 1 名見学）作品 12 本でしたが、S-VHS は 1 本のみであとはオール DV テープという様変わり。今月の司会有村氏、書記安居氏、デッキ係西村氏。受付兼照明係は増池氏、安居（良）さん。

■出席者：有村、江村、岡本、河合、上総、金子、合原、関、中尾、那須、華岡、藤原、西村、玉井、前田、増池、松本、森口、森下、森田、森、安居夫妻の 23 氏と見学者 1 名の 24 名。

■上映作品（今月の講評は安居世話役です）

1. やっちょれ 森田 光春さん 7分40秒

この夏、高知のよさこい祭りをクラブの有志で撮りにいった時の作品です。動きの速い若者の踊りをアップで撮るのは、難しいものです。しかしよさこい全体の雰囲気は良く捉えておられました。残念なのは、音がぶち切れて、それと共に映像もカタカタと断続したことでした。作者はハードデスクによみこんで長い時間ほっといて最近繋いだら、こうなったといわれています。技術はすぐ習得されると思いますが、音処理と構成をもう少し考えられるともっと迫力のある作品に仕上がるのではないのでしょうか。

2. 奈良の四季 有村 博さん 13分07秒

ヴィヴァルディの四季の音楽に、奈良の四季の画像をかぶせた実験作品。四季の中で秋が一番良かったと思いました。秋の景色だけで構成されておられるからでしょうか。スーパーも少なかったのが気が散らなかったです。「音楽の四季と奈良の四季がたまたまあったからあわせてみた。」やはり何を表現したいか、明確にしないと視聴者に何も伝わらないような気がします。名曲の BGV としてなら、場所、建物説明のスーパーは、邪魔になるようにも思います。でもみんなも一度は企画したいと思った作品です。見せていただいて、いろいろ考えさせられました。大いに参考になりました。

3. 秋の七草 安居 良枝さん 7分

BGM にパナソニックの BGM ジェネレーターを使った作品です。時間を指定し画面に応じてリズムとメロデーをくみ合わせることによって、自分好みの B

GMがつけられます。ただ慣れないと合わないのと、音楽が薄っぺらな感じがするので、ナレの入っているもの以外は、だめかもしれません。PCを介しているので使用者はPCをもっているという制限が加わります。いいところは、出来たBGMは著作権フリーです。作品は「女の人の感性でないといけないもの」と司会者のコメントがありました。

4. もう一つの岸和田だんじり 安居 利次さん 6分30秒

9月14-15日の岸和田だんじり祭りは、マスコミによって、全国的に宣伝された為、撮る事は不可能というのが、定説になっています。しかしもともとの秋のだんじり祭りは10月9-10日です。旧紀州街道沿い以外のところにいけば、10月に同じように、やりまわしもあり、結構迫力があるだんじりが見られます。研究会で前田さんも貝塚のだんじりを披露されましたが、見物人があまりいないのは同じですので、一人で撮れる岸和田だんじりというところでは、しかしこうやってクラブで発表していくと穴場とわかり、近いうちに見物人が殺到するのではないかと言う声がありました。筆者も前田さんのように、宮入りから夜の提灯をつるしただんじりまで、撮るべきだったと後悔しています。

5. ファドの聞える町 合原一夫さん 8分02秒

この間から続いているポルトガル紀行の1篇。ファドとは女性にささげる愛の歌だそうでもたまたま一年に一回ファドの歌声が聞ける幸運の日に出くわされたそうです。アベイロの町は、学生の町でもあるそうで、黒マントにギターを手にした男学生が、窓から顔を出した女学生に向かって、ファドを歌う風景は、青春の原点を見るようで、なかなかいいものです。ファドだけで8分もたす構成もさすがですが、それには旅行中撮りながら大体の構成が出来ていないと無理な話だと気づき、旅行紀のベテランの目の付け所に、改めて驚きました。ファドの後のビールでのくつろぎは見ている人にも安堵感が得られました。

6・温泉 森 保信さん 4分36秒

温泉の湧き出る様子が水蒸気とともに克明に描かれています。日本の地下ではマグマが今なお、盛んに活動しているのが、改めて再認識させられます。別府の地獄めぐりの映像なのです。煮えたつ泥地獄や沸騰する池のなかに、窯が作られ、鬼が鉄棒を持って窯から顔を覗かせています。そして最後に湯煙の中から、お釈迦さまが、柔和なお姿で現れて the end 面白いラストシーンでした。ここまで地獄が出てくるのだったら、タイトルも、温泉では平凡過ぎるので、再考してはと言う意見がありました。

7. 夏の礼文島 那須 典彦さん 5分

とにかくきれいな映像です。しかも作者は2-3時間もあれば、編集が終わりBGMもつくというのですから、驚きです。なるほど、導入部分の礼文島につくまでのカット繋ぎは、一本撮りのような感じですが、おそらく何も考えなくても、無意識に目と手が勝手に撮っているようです。長年の作者の感性の賜物と思います。礼文島は花より他はなにもなかったのですが、大部分がお花畑の様子だけでは、チョット物足りなく思いました。ですから、二宮尊徳のシルエットが小さく映ったカットが非常に印象に残りました。花と対象にもう少し人間くささがある映像を入れてほしかったと思いました。

8. 青春躍動す(改作) 河合 源七郎さん 5分53秒

先月に出されたときは、11分50秒、半分に凝縮されて、見違えるようにいい作品に仕上がりました。昼と夜の転換に花火のシーンを使われたようですが、それが音といい映像といい、すごい迫力ですので、最後に「来年もまた会おう」

というナレのあとにラストシーンとして入れ替えたらもっと良くなるという意見がありました。それらの意見を入れてフェスティバルの上映までに更なる改作をして見ると作者もおっしゃっていました。OMCのいいところは、いろいろな意見が飛び交い作者が納得したらとりれて、改作しながらいい作品を作り上げていく処にあると思います。しかし他人の意見を取り入れて、うまくいかないこともあります。やってみて、元の方が良かったら自分のポリシーが正しかったんだと自負することもいい経験になるように思います。

9. 風と水のファンタジー 金子 博泰さん 5分45秒

面白い作品に仕上がっています。輪廻回生、諸行無常、など石造佛と違って、対象が動く芸術品ですので、見ていて楽しいです。「水に関してはシャッター速度をかえると違った映像が撮れてもっと変化のある作品が出来るのところがうか」と司会のお話がありました。後半の風でくるくる回る鏡のような金属板に映った変化する風景がチラッとしか見えませんでした。このアップを撮ると今度はスピード感のある映像になるのではと思いました。こういう対象物は石佛と違って、「軽い」ことは確かですが、金子さんの持論、面白い作品を作るという題材としてはぴったりだったようです。

10. 子犬のはなし 上総 修一郎さん 19分12秒

ホームムービーで20分近く、画面に吸い寄せて見せる業に、さすがと思いました。これはベテランの作品作りのコツを心得ている見本とっていいものでしょう。題材の子犬が生まれ、もらわれていく過程が見ている人の心をうちまします。犬は人間によって長い間飼われただけあって人の心や環境を第六感で、微妙に感じ取る能力を持っています。4匹の子犬との別れを察した親犬が、いつもはしない行動、つまり全部の子犬に同時に授乳する光景は、心うつものがありました。それでいて一年後大きくなった子犬との再会の折は、始め、真剣に順位の確認の闘争をすところなど野生の本能も残しています。こういう描写は作者の知性が自然ににじみ出た構成というところでしょうか。見事な作品でした。

11. 初秋の頃 江村 一郎さん 4分55秒

大和高田のチョット寂れた下町の情緒が、良く描かれています。タイトルの「初秋の頃」からすると始めのカットにしか「秋がない」という意見もありましたが、江村さんは「初秋」はむしろ下町の哀歎を表す形容詞と考えておられるように思ったのです。2-3回出てきたロングカット、なかでも道の向こうから子供たちが自転車とスケーターでやってくるシーンは40秒の長ロングカットです。この変わった編集に異論もありましたが、ここにこそ江村さんの特徴があると思います。長ロングカットがすんなり受け入れられる背景は、いろんな人物が画面に現れて消えるところでしょう。そこから作者の意図が汲み取れるように思うのです。江村流が変わったという論もありましたが、筆者はむしろこれが作者の原点のように思いました。

12. 天川名水紀行 森口 吉正さん 6分40秒

天川というタイトルを見て筆者の脳裏を掠めたのは、長野県知事になった内田康夫の「天河伝説殺人事件」の舞台でした。吉野からかなり入った大峰山の修験道の入り口に当たるところで今や名水の湧出地として有名だという事です。小説に描かれた自然とは全くイメージが違いました。作者は名水紀行として作者独特の語りで少々の歴史と現在の名水事情を解かりやすく解説しておられます。車の利用で、タンク持参の人たちが列をなす様は、作者のナレにもあった

ように名水湧出の清らかなイメージとは違いました。筆者の描いていた天川の幽玄の世界と二重の意味で違ってしまいました。森口さんは独自のビデオの世界の作風を確立されたようです。有能な才能の持ち主ですから、新しい分野を開拓されん事を期待します。

■インターネット

Yahooに藤原さん、柴谷さん(元OMC会員)のホームページが10月31日登録されました。本当にオメデトウございます。Yahooへのサイトの掲載はこれまで大変敷居が高く大変難しいといわれていました。ご兩人とも1年前から申請中でしたが、今回やっと成就したということです。

数ある検索エンジンの中でYahooはNo. 1で、HPを開設した人はYahooに掲載してもらうことを大きな目標にしています。

Yahooから検索するには、

- ①カテゴリ検索では、「芸術と人文」→「視覚芸術、ビジュアルアート」→「ビデオアート」とたどっていくと、検索できます。または検索枠に、
- ②ビデオと入力し→「ビデオアート」とするか、③ビデオ映像と入力し→「ビデオアート」とする。
- ④ビデオ作家と入力し→「ビデオアート」とする。
- ⑤アマチュアビデオと入力し→「ビデオアート」とする。
- ⑥videoと入力し→「視覚芸術、ビジュアルアート」→「ビデオアート」とする。

以上いずれの方法でも検索できます。

現在藤原さん、柴谷さん、前田さんを含めてアマチュア作家の4サイトが、Yahooのビデオアートに掲載されています。一度お試しください。

(ビデオアート)

映像散歩 (OMC関連)

管理者：藤原純三さん

<http://www.os.xaxon.ne.jp/~fujihara/>

ビデオラウンジ

管理者：柴谷郁夫さん (元OMC会員)

<http://www.os.xaxon.ne.jp/~isv/>

ビデオスケッチ (OMC関連)




管理者：前田茂夫さん

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

●毎月のネット掲載作品の選定は、インターネット映像の技術的制約から、①映写時間が短い、②激しい動きが少なく且つカットがあまり短くない、ことを基準に選んでいます。ご了解ください。

VIDEO 10月のインターネット例会作品紹介

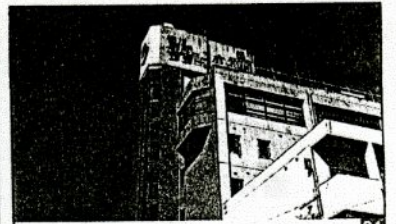
「夏の礼文島」那須 典彦作品 (画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for 28K modem	747KB 4分04秒
1			

2001' OMC 撮影会ご案内

- 日 時 3月17日(土)～18日(日)の1泊2日
- 行 先 福岡県・水郷柳川(雛祭り水上パレードの日)
- 会 費 16,000円(但し、交通費一切と昼食費は各自負担)
・費用に含まれる主なもの: 宿泊費、懇親会費、川下りの舟賃、白秋生家と料亭おはな入館料、ホテル朝食。
- 宿泊場所 西鉄柳川駅近くのビジネスホテル
「柳川グリーンホテル」 柳川市外下百丁 電話 0944-73-2125
- 撮影対象
- ・1日目: 午後、柳川市の郊外、沖の端へバスで直行、明日の柳川の雛祭り水上パレード撮影のロケハンを兼ねて、水郷柳川風情を撮影、漁港も撮影対象になります。その他北原白秋の生家と記念館および元立花藩主の屋敷、お花の庭園と豪華な雛飾りを撮影します。(時間によっては明日の午後一部廻します)。最後は舟に乗り川下りにてホテルに入ります。夜は近くで懇親会を開きます。
 - ・2日目: 朝食をすませ7時半頃駅前からバスで水上パレード出発点、沖の端へ直行、準備風景を撮影。10時より行事開始。スチールカメラの撮影会やら一般の観光客が多いので、早目に撮影ポイントを確保しよう。昼食は各自で適宜すませ(店は多数あり)2時頃集合、撮り残し箇所などの撮影後、バスかまたは撮り歩きで4時には西鉄柳川駅に集合。一旦解散します。
- 集 合 3月17日(土)午前7時30分、新大阪駅21番線。ひかりレールスター1号車付近(8両連結のためホームの中程より少し新神戸寄り)に遅れないよう集合。
- 行きの時間と経路など
- ・ひかり357号 新大阪駅始発7:50分発→博多着10:37分(運賃自由席で14,080円)地下鉄に乗換えておよそ6分で天神着。天神で西鉄電車に乗換、特急で柳川駅へ直行(所要時間46分、運賃830円、特急券不要です)。駅近くのグリーンホテルで荷物を預け、撮影機材のみで沖の端へ行きます。
- 帰りの時間
- | | | | | | |
|-------|-------|---|------|-------|-------|
| ・博多始発 | 17:39 | → | 新大阪着 | 20:27 | (8両) |
| ・ " | 17:58 | → | " | 20:47 | (") |
| ・ " | 18:58 | → | " | 21:47 | (") |
| ・ " | 19:32 | → | " | 22:22 | (") |
- 博多駅まで、柳川から約1時間半、余裕をみて2時間ほどかかりますので、その積もりで柳川を立つ必要があります。
- 参加の確認を同封のハガキで行いますので、例会日までにご返事をお願いします。同僚者も受け付けますので、その旨ご記入ください。
- 参加希望者は、恐れ入りますが、会費を例会日に会計に納めてください。

以上



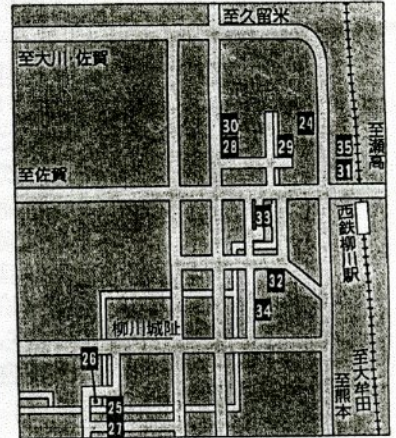
ひと足のばして—
西鉄柳川駅から歩いて2分
ビジネス・観光に

柳川

グリーンホテル

柳川市外下百丁

TEL (0944) 73-2125

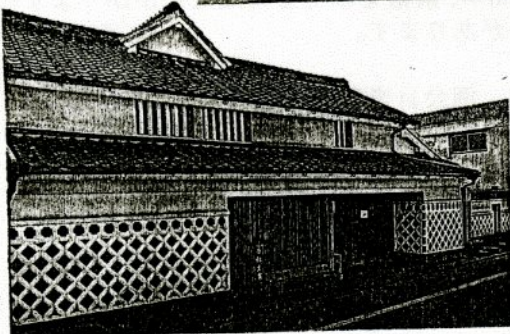


白秋記念館

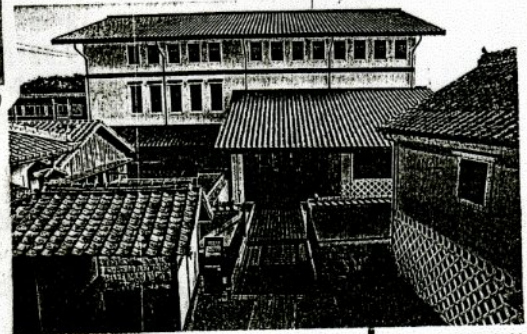
白秋生家の奥には、昭和62年生誕百年を記念して建てられた「柳川市立歴史民俗資料館（白秋記念館）」があります。1階では、柳川の歴史や民俗資料を展示。2階では、北原白秋のおたちを中心に、愛用品などが公開されています。



ひな祭り



白秋生家



白秋記念館